令和８年10月 宝塚市長定例記者会見 議事録

日 時　10月27日(火)14時00分から15時00分まで　場 所　特別会議室

出 席 者 (市)　市長、両副市長、市立病院副事業管理者(新病院建設担当)、健康福祉部たからづかモデル担当部長、市立病院経営統括部新病院建設担当次長、市立病院経営統括部新病院建設担当課長、都市整備部既存病院利活用担当課長

出席者(記者クラブ)　朝日新聞社、神戸新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

1 発表案件

(1)2032年度開院へ、新病院の整備基本計画まとまる
市民意見53件を踏まえ、外来・病棟など19部門の整備方針を具体化
(市立病院経営統括部 新病院建設担当)

【質疑】

(記者)個室と有料個室の違いはどのようなところですか。

(担当)一般的な有料個室のパターンとしてはトイレや洗面所、浴室などが付いている場合があります。今回の新病院整備で有料個室についてどの程度の差をつけるかは、今後の設計段階で詳細を検討します。また、一般個室の上乗せ料金は無い予定です。有料個室の料金設定などもこれから検討することになります。

(記者)市長の最初の説明の中で「市民の皆さまからのご寄附」というお話がありましたが、寄附金は現在も相次いで寄せられているのでしょうか。

(担当)金額の差はありますが、ご寄附はございます。例えば地域活動をされている方がお祭りのたびにお金を集めて寄附してくださったり、あるいは市立病院での医療スタッフの対応が良かったということで寄附してくださる方がしばしばいらっしゃいます。そういった思いを忘れずに一つ一つ蓄積していって、病院建設時に 250 億円のご寄附だけでなく、感謝の気持ちをお伝えできるようなことができたらと考えています。

(記者)パブリック・コメントでも出ていますが、市立病院の位置はどの駅からも遠く、交通アクセスについて何か考えている点はありますでしょうか。

(担当)現時点で新しい計画があるわけではありませんが、公共交通として阪急バスや阪神バスが病院あるいは近隣に停まっていますので、それをうまく活かしつつ、考えていきたいと思っております。

(記者)病院事業を市直営でやるメリット・デメリットを改めてお聞かせください。

(市長)企業会計として独立しているものの、直営であるメリットは、市が裁量権を持って運営できるという点です。例えば新型コロナウイルス対応の際も、市民の状況に応じて市立病院と一体的に対応することが可能であったと思っております。 一方で、直営ではない場合は、地方独立行政法人や指定管理といった様々な形態がありますが、病院運営

の自由度が増し、経営改善や柔軟な雇用体系の構築、民間ならではの工夫といったメリットがあるのも確かです。ただ、多くの皆さんが思っているほどの大きな違いがあるわけではなく、市直営の公立病院としてできる限り最大限の経営努力と魅力ある病院づくりをしていくことが本筋だと考えています。

（次頁に続く）

（2）民間事業者の力で、市立病院跡地を新たな拠点へ
自由なアイデアを 10 月 27 日から募集
（市立病院経営統括部 新病院建設担当、健康福祉部たからづかモデル推進課）

（記者）新病院を現第 1 駐車場のところに造られるとのことですが、既存施設を利活用する場合や新病院が完成した時の駐車場は何台分くらい確保されるのでしょうか。

（担当）現在は職員用駐車場も含めて 400～450 台程度、来客用としては主に第 1・第 2 駐車場を合わせて 240 台ほど確保しています。今後、施設が集約される中で来場者駐車場の確保や、緊急時・職員用の駐車台数も必要になるため、周辺の土地の取得も含めて確保していく方向で検討していきたいと考えています。

（記者）来客用 240 台の現在の利用状況について教えてください。

（担当）現状の 240 台の駐車場は、10 時台から 11 時台がピークで満車になることがあります。

（記者）新病院の基本計画では駐車台数を何台としていますか。

（担当）現在と同程度の 240 台としています。既存施設の利活用により利用者が増える場合は、プラスアルファで駐車場の確保が必要と考えています。

（記者）利活用を検討している全体の敷地面積を教えてください。

（担当）約 19,000 ㎡になります。

（記者）このエリアの土地について、例えば売却することは考えておらず、市が土地を所有した上で既存施設を利用してもらう前提ですか。

（担当）病院全体の敷地として一体利用を想定している関係上、土地の売却まで現時点では考えておりません。ただし、建物の賃貸を含めどのような条件が望ましいか、事業者のお考えもお聞きした上で市として検討していきたいと考えております。ケースによっては売却の可能性が完全にゼロとは言い切れませんが、基本的には既存の建物を有効活用（利活用）していただくことを想定しています。

（記者）たからづかモデルのようなエリア一体で医療拠点をつくる取り組みは、全国的にもめずらしいのでしょうか。

（担当）例えば、急性期病院と回復期病院の整備事例としては、山形県米沢市の事例が挙げられます。

（記者）既存施設は老朽化しているとはいえ、耐震性を持った建物ということで、利活用の検討をされていると思いますが、そうするとそのまま新しい病院を建てずに、改修して新病院にすればいいのではという声も出てくるかと思います。その点について教えてください。

（担当）病院の機能を完全に止めて改修するということは可能ですが、運営しながらというとなかなか困難な状況もあり、その選択をしなかった経緯があります。既存施設については、解体して駐車場にするのか、解体せずに利活用するのかといった検討を重ね、この

度のサウンディング調査により利活用の方向性を探ることとなった次第です。

（記者）基本的にはたからづかモデルに関連したプランが良いと思いますが、例えばショッピングセンターや遊園地のようなプランが出た場合は検討できるのでしょうか。

（担当）用途地域の制約上、商業的な施設を作ることが難しい地域です。まずは医療の拠点として、新病院や回復期病院と相互に連携できる施設が最も望ましいと考えています。

（記者）今の敷地内で、解体するのは市立健康センターだけでしょうか。

（担当）市立健康センターは解体して移設する予定です。また、看護専門学校の北側に看護師寮と医師住宅があり、そちらも解体を予定しています。

（記者）新病院の開院が令和 14 年度中ということですが、現在既存棟に入院されている患者さんはその後どうなるのでしょうか。

（担当）新病院の機能が全て新しい病院に移ったあとに、既存棟の利活用の工事を始める計画です。令和 14 年度中に新病院が開院し、患者の皆様は新病院に移られますので、令和 15 年度以降に改修や利活用の工事を始める流れとなります。

（次頁に続く）

2. その他

【質疑】

（記者）警察との連携や、市を装った不審メール等の報告は現時点でありますか。

（市長）現時点で我々が知る限り、市を装った不審メール等の被害報告はございません。警察についても状況はご承知いただいているものと思いますが、本件に関して特段の連携や情報提供を行っている状況ではございません。

（記者）サイバー攻撃によって市の業務が滞るような影響はありますでしょうか。

（市長）現時点では業務の滞りはございません。人工知能の発展等により今までに想定されていない攻撃もあり得ると考えており、国の方針に従って対策を行いつつ、最新の情報を収集しながら状況を注視してまいります。

（記者）高齢者など SNS を使えない層へいかに情報を伝えるかという課題もありますね。

（市長）おっしゃる通り、スピード感を持って注意喚起する手段として SNS や LINE を活用していますが、ご高齢の方などへの伝達方法は今後の大きな課題です。難しい面はありますが、こうした危機感や状況を何も発信しないのではなく、お伝えすること自体が市民の皆さまの安心や警戒につながると考えて発信しております。

以上